
＜鳥海山の魅力と飛島の歴史性＞

鳥海山は数えきれない噴火を繰り返してきた活火山でありながら、天然のダムと言われるほどの湧水群を持つ山でもある。この湧水が鳥海山の生態系を育み、私たちは豊かな自然の恩恵を受けながら独自の文化を築いてきた。

また、飛島には全国でも貴重な漁村文化が色濃く残り、島の自然は島民の生活様式と共に大きく姿を変えてきた歴史を持つ。

鳥海山と飛島には、二つを結びつける伝説や習慣が数多く残り、自然と歴史を同時に体験できる貴重な場所となっている。

＜鳥海山・飛島ジオパーク構想＞

ジオパークとは、ジオ（大地）の活動がもたらす貴重な地形・地質の上に成り立つ自然環境と、そこで暮らす人間の文化を一体として学べる場所のことである。

鳥海山・飛島ジオパーク構想では、「日本海と大地がつくる水と命の循環」をテーマに、地域に眠る貴重な資源を掘り起し、環境保全・自然教育を通じて地域を知ることで、自分の住む地域の誇りを持つことを基本にした地域の活性化に取り組んでいる。

＜市郊外の自然豊かな里山エリア＞

酒田市の郊外に目を向けると、八幡エリアや松山エリア、平田エリアには今でも豊かな里山の風景が残っている。また、それぞれのエリアには、これらの自然を満喫できる施設がたくさんあり、同時にそばが食べられるお店も点在しているなど、ゆっくり自然や歴史を楽しむことができるとともに、食も十分に満足できるエリアである。

◆ オリジナル・ストーリーとの関連

鳥海山や飛島などを中心とする自然環境は酒田にとって重要な観光資源である。よって、これらの自然環境を酒田の観光の入り口とし、これらに歴史や公益の精神などを結びつけることで、新たな観光テーマを見出すことができ、また、酒田の観光が重層的に展開をするためにも不可欠である。



【鳥海山（春）】



【鳥海山（冬）】



【飛島】



【飛島の鼻戸崎からみた鳥海山】



【眺海の森からみた夕陽】



【ライトアップされた玉簾の滝】

◆ 施策例

●酒田の自然や気候風土を活用したイベントの開催

酒田の特徴的な自然環境や気候風土を活用した多様なイベント、酒田を体感できる独自のツアーや、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムなど、酒田ならではの生活体験ができるツアーを実施する。

●ジオパーク関連イベントの開催

鳥海山・飛島ジオパークの日本ジオパーク認定を目指して、市民の機運醸成のため現地見学ツアーを開催する。

●観光施設等のライトアップによる夜間景観の形成

滞在型の観光を促進するため、夜間景観の魅力向上を図る観光施設等のライトアップ事業を行う。また観光施設のみならず、新井田川河畔の桜並木や玉簾の滝など、自然景観を対象としたライトアップも行う。

●湊町酒田のシンボル酒田港の魅力増進

最上川河口と日本海に面した固有の地形・地勢により北前船寄港地として繁栄した湊町酒田のシンボルでもある酒田港の魅力増進を図るため、市民や関係団体など幅広い関係者による協議会などを設置し検討を進める。

④ 公益と豪商の活用【サブ・ストーリー④】 ～ 本間光丘の植林事業にみる公益の精神 ～

＜本間光丘による植林事業＞

南北 33km、長さ日本一の庄内砂丘は、シベリア下ろしの北西風が日本海から吹きつけ、1年を通じて砂嵐を巻き起こしていた。本間家三代目・本間光丘は、この砂嵐を防ぐため、私費を投じて“西浜砂防林植林事業”に取り組んだことで知られている。

＜本間家の累代による公益活動＞

本間家は、三代目・光丘だけにとどまらず、町立酒田商業高校や山形高等学校建設時の支援や各種団体に対する寄付行為など、累代様々な社会貢献活動や事業を行っている。

また、二代目・光寿の弟・本間宗久は「相場の神様」とも言われ、氏が考案した手法が、今でも株式相場や商品先物相場などの投機の世界で相場の指標を求め手段として国境を越えて活用されている。

＜東北公益文科大学の開学＞

平成 13 年、酒田市に開学した東北公益文科大学は、日本で唯一の公益学の教育・研究を行う大学である。グローバルな視野を持ち、地域の人々とともに、地域社会が直面する経済、行政、福祉などの課題に、リーダーシップをもって果敢に取り組む人材を育成している。

＜究極の“公益”「即身仏」＞

日本国内におよそ十数体ある即身仏のうち、庄内地域には6体、酒田（日吉町の海向寺）には2体の即身仏が安置されている。自分の体を後世に残すことによって、いつまでも民衆のために祈り続けるお姿は、まさに公益の極みである。

◆ オリジナル・ストーリーとの関連

即身仏はまさに“公益”の極みであるが、酒田の豪商「本間家」も累代にわたり公益的な活動を実践してきた。この意味で、本間家の歴史は「世のため人のために尽くす」公益活動を実践してきた歴史である。この“公益”の精神は、今でも酒田市民の精神的根幹であり、おもてなしの心として育まれている。観光振興への取り組みにおいてもこのおもてなしの心をもって観光客を迎え入れることが重要である。



【本間家旧本邸】



【光丘文庫】



【三代目・本間光丘】



【東北公益文科大学】



【庄内砂丘と黒松の防風林】



【海向寺の即身仏】

◆ 施策例

●東北公益文科大学と連携した観光を担う人材の育成

日本で唯一の公益学の教育・研究を行う大学である東北公益文科大学との連携し、観光交流・地域づくりの場面でリーダーとなり、酒田の観光交流を創出する人材を育成する。

●公益の精神を体感するイベントの開催

累代に渡って公益に貢献してきた本間家の歴史や、即身仏に思いを馳せるツアー、ボランティア精神、公益の精神を体感するイベントを開催する。

●本間家の精神と北前船の歴史を学ぶ勉強会の開催

本間家四代当主光道が、丁持（港湾労働者）の冬期失業対策事業として建築した別荘が現在の本間美術館。庭園には、酒田港から米を積んで出港した北前船が、帰路、空荷では船が安定しないため、船底に積み込んで運んだ全国各地の名石が多く配置されている。このような本間家の精神や北前船の歴史を学ぶ勉強会などを開催する。

●土門拳の活動と公益

酒田市出身の世界的写真家である土門拳の活動に関して、生い立ちを含む歴史的背景や活動内容についてあらためて見直し、土門拳のリアリズム写真が社会に及ぼした影響等について、特に公益の観点から採り上げる。